

## 文化財コラム

### 「三刀屋町出身の医師 藤原薫」

医師の藤原薫氏に関する資料をご子孫から雲南市へ寄贈いただきました。(令和7(2025)年11月19日付)

藤原薫氏は明治8(1875)年に飯石郡鍋山村(現雲南市三刀屋町乙加宮)の医者・藤原寛齋の下に生まれました(写真1)。22歳の時に医学部を卒業した後に鍋山村の医師として開業し、鍋山・掛合・松笠・三刀屋・下熊谷などの小学校では学校医としても勤めています。明治35年(1902)28歳の時、当時社会問題となっていた足尾銅山鉍毒被害の調査に従事するほか、飯石郡医師会会長として郡内の助産師や看護師の養成に努めました。明治40(1907)年33歳で飯石郡の郡会議員に、大正6(1917)年には鍋山村会議員、その翌年44歳の時には県会議員に当選しており、政治家としての人生も歩んでいきます。県会議員時代には、大正13(1924)年の三刀屋中学校(現島根県立三刀屋高校)設立や飯石郡内への鉄道誘致活動などに尽力し、当時の飯石郡発展のために政界でも活躍をみせました。

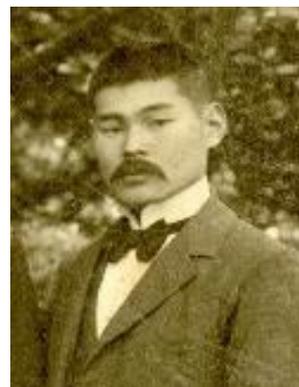


写真1 藤原薫氏

#### ・ドイツ医学を学ぶ

薫氏は島根県尋常中学校(現島根県立松江北高校)で学んだあと、医師免許を取得するため岡山第三高等中学校医学部(のち第三高等学校医学部に改称、現岡山大学医学部)へ入学します。明治29(1896)年、22歳で卒業し帰郷、開業医となりました。薫氏は島根県尋常中学校へ明治22(1889)年4月に入学し、明治25年(1892)に卒業していますので、現在放送中のNHK朝ドラ「ばけばけ」の主人公の夫・小泉八雲が尋常中学に赴任していた時期(明治23年~24年)とちょうど重なっています。直接の手がかりがなく、実際に小泉八雲の授業を受けたのかは分かりませんが、同じ校舎内にいたことは間違いありません。もしかしたら小泉八雲と交友があったかもしれないと想像が膨らみます。

寄贈資料には、「病理学」や「生理学」、「衛生学」など岡山第三高等中学校時代に綴った講義録=勉強ノートが多く残されています(写真2)。当時の第三高等中学校では日本語でドイツ医学を教えており、日本人が執筆した翻訳本や著書を使用していたと考えられます。寄贈資料のノートからは、慣れない専門用語に薫氏が苦心して学んだ様子が伺えます。



写真2 岡山第三高等中学校時代のノート

・北里柴三郎の下で学ぶ

また薫氏は「近代日本医学の父」と称される北里柴三郎の下で最先端の医療を学んでいたことが分かりました。ドイツでの破傷風研究を成功させた北里柴三郎は帰国後、日本にも伝染病を扱う研究機関が必要だとして明治 25 (1892) 年に「伝染病研究所」(現東京大学医科学研究所) を東京に設立します。薫氏はその 8 年後の明治 33 (1900) 年、26 歳の時に伝染病研究所で講習を受けました。

寄贈資料には他にも当時の医師仲間と撮影したとみられる集合写真が多数あります(写真 3)。これらの場所や集会内容を調べることで、今後薫氏の交友ネットワークを明らかにすることができるかもしれません。



写真 3 医師仲間の集合写真とみられる(場所不明)

文化財課では引き続き市内の歴史資料等を調査していきます。雲南市の歴史に関わる資料の調査・寄贈を受け付けていますので、ご相談等がございましたら当課までご連絡ください。

令和 8 年 (2026) 3 月  
雲南市教育委員会文化財課